

緩和ケア通信 令和2年第3号

津島市民病院緩和ケア病棟理念

つね(常)に寄り添い

しんし(真摯)な心で

まごころ(真心)こめて

その人の持つ生きる力を支援いたします

もっと知って！緩和ケアQ&A

Q. 末期がん患者の気持ちのつらさが表れるのはどんなときですか？家族は、どう対処すればよいでしょうか？

A. 患者さんの気持ちのつらさは、多くの場合、患者さんの言動の変化に表れます。まずは、落ち着いて、じっくりとその方の話に耳を傾けてください。じっとしてふさぎ込んでいる感じが強くなったり、食欲が落ちたり、眠れなくなったり、好きだったテレビや読書、新聞などに興味を持たなくなったようなことが見られたら、「気持ちのつらさ」が強くなっているかもしれません。ご家族は、最初から特別なことをしようと思わなくてもよいです。まずは、温かく見守ることが大切です。次に、何か心配や不安があるようでしたら、次のように問いかけると良いでしょう。「最近、気持ちがつらそうに見えるけど大丈夫？」「気持ちをつらくしていることが何かあるの？」「病気のこと何か心配があるの？」このような質問は「開かれた質問」と言って、相手が自由に答えることができるので、好ましいとされています。もし否定的で弱気な事を言われた時に大切なことは、じっくりと落ち着いてお話を聴いてあげることです。「そうなんだ。〇〇がつらかったのね。」「それはつらかったね。」場合によっては「うん、うん」とうなすくだけでもいいでしょう。まず、じっくりと相手の話に耳を傾ける、一生懸命聴いてあげることがなによりも大切です。気持ちのつらさが強く、長引く場合には、医師や看護師に相談してください。家族だけで抱え込まず、気楽に医療者にご相談ください。



令和2年 12月 24日



緩和ケア病棟では毎年、患者さんとご家族にクリスマスを楽しんでいただけるように、クリスマス会を行っています。

いつもなら談話室で合唱や手品などのイベントを行いますが、今年はコロナの影響で談話室でのクリスマス会は中止となりました。そこで、ハンドベルの演奏をソーシャルディスタンスで距離をとり、各部屋から見ていただけるように企画しました。イベント係は「シングルベル」の演奏を練習し、当日は心をこめて演奏しました。そして、患者さんの笑顔をみることができました。サンタに扮した高木医師から受け持ち看護師によるメッセージカードをプレゼントし、煎れたての珈琲やお抹茶とお菓子でクリスマス気分を感じて頂きました。

